



# 米子市埋蔵文化財センターたより



第21号

2016年6月

## 米子城の謎の解明にむけて その4 - 登り石垣の調査 -

梅雨空のなか、平成28年度の「米子城跡保存整備事業」に基づく発掘調査がいよいよ始まりました。今年度は、内膳丸から本丸遠見櫓にかけて延びる登り石垣を中心にした調査を行います。現況踏査の結果、この登り石垣が天守付近まで残存している可能性が想定されていました。

登り石垣とは、尾根に平行して山の斜面を登るように築かれた石垣で、山の斜面に石垣の障壁を設け敵の侵入を防ぐものです。この登り石垣は豊臣秀吉の朝鮮出兵(文禄慶長の役【1592～1598年】)の際に、秀吉軍が朝鮮半島に築いた倭城によく用いられた石垣で、伊予松山城や淡路洲本城などに残っています。倭城は日本の築城技術が最高峰に達した時期にあたり、また侵攻先の前線基地として軍港防御のために築かれたため、軍事力が非常に高いのが特色です。この築城技術は参戦した全国の大名の城作りに大きな影響を与えました。石垣を備えた近世的な米子城の築城を行った吉川広家は朝鮮に出兵しており、この倭城の技術を米子城築城時に持ち込んだ可能性が考えられます。

元文4(1739)年の「米子御城明細図」を見ると、鈴門から内膳丸に登ったところに「御門」が描かれ、そこから両側に石垣が伸び、一方は内膳丸に、一方は天守遠見櫓に繋がっています。したがって、内膳丸と一体化させた登り石垣による防衛ラインを設け、中海側からの敵の侵入を防ごうとしたと考えられます。調査はまだ始まったばかりです。

この絵図の通りに石垣はでてくるのでしょうか。解明されれば、米子城の大きな特色になること間違いありません。(文化課 濱野)。



登り石垣の現況(下草除去の段階)



米子城跡登り石垣推定図

## 整理作業情報

### ―越敷山古墳群の整理作業―

整理室では平成26年度に実施した伯耆町金廻の「金廻芦谷平遺跡」、「越敷山古墳群」の発掘調査の整理と報告書作成作業を進めています。「金廻芦谷平遺跡」からは、縄文時代の陥穴や弥生時代前期の土坑が発見され、「越敷山古墳群」からは小規模な古墳や石棺、石蓋土坑など59基もの埋葬施設が調査されました。

このたびの整理作業で、復元した須恵器の大甕は、越敷山80号墳から出土したものです。この古墳は横穴式石室を埋葬施設とするもので、古墳時代後期の6世紀末頃の古墳です。大甕は高さ80.6cm、口径40.8cm、胴径64.4cmを測る大きな土器です。

意図的に割られて周溝に捨てられた出土状況から、葬送祭祀で使われたものと考えられます。(佐伯)



復元した須恵器大甕

## 整理室たより

### 米子市埋蔵文化財センター収蔵考古資料の整理

―江美城関係資料―

米子市教育委員会では、現在「米子城跡保存整備事業」の発掘調査が実施されています。城跡の発掘調査では大量の屋根瓦が出土します。瓦も年代により模様や形が異なるため、城の築造年代などや、大名間の関係などを知る手がかりとして研究されています。

米子城の瓦も広瀬の富田城や江府の江美城の瓦と似通ったものが出土しているため、米子市埋蔵文化財センターでは米子城解明の一助とするために、江府町教育委員会の協力を得て江美城出土瓦の整理研究を行いました。(佐伯)



上 江美城軒丸瓦 下 江美城軒平瓦

今津岸の上遺跡は、米子市淀江町今津に所在する遺跡で、平成元年（1989）に宅地造成に伴い発掘調査され、弥生時代前期の楕円形に巡るV字状の壕を持つ環壕遺構が確認されました。壕内部から竪穴状遺構1棟、掘立柱遺構1棟、柵状遺構2基の遺構が発見されています。

出土遺物は弥生時代前期後葉の壺や甕などが検出されています。

淀江海岸近くの微高地に営まれた稲作導入初期の環壕を巡らす村跡という特異な遺跡です。

また、平成3年にも工場用地造成に伴い発掘調査され、古墳時代中期の竪穴建物跡7棟、掘立柱建物跡1棟が発見されています。（小原）



今津岸の上遺跡の調査

## コラムー鎌倉時代を掘る①

## ー尾高城跡南大首地区ー

尾高城あとは米子市街地から東7kmの尾高集落東側の山麓端にある中世の城跡です。戦国時代には毛利氏の尼子氏攻略の東の拠点として重要な城でした。城の始まりは室町末に山名氏の一族の行松氏の居城と伝えられ、戦国時代には毛利の杉原盛重が本格的に整備したようです。

ところが、発掘調査で南大首郭の外側から、鎌倉時代の掘立柱建物跡が発見され、城の歴史が更に遡ることが分りました。建物周囲や柱穴から、中国の同安窯や龍泉窯の青磁器や、須恵質や亀山系、常滑系の陶器などが発見され鎌倉時代の13世紀頃の建物であったと考えられています。建物跡は、3間×3間で底が廻る掘立柱の建物跡Ⅰと礎石建ての建物跡Ⅱの2棟で、同一場所に西に1mずれて検出されました。建物跡Ⅰから建物跡Ⅱへ建て直されたと考えられています。（小原）



南大首の建物跡Ⅰ・建物跡Ⅱ

## センター・資料館日誌

- 4月1日 埋文センター玄関展示ケースを  
替し米子城発掘資料を展示した。
- 4月12日 出雲市の花谷氏が上淀廃寺の瓦の  
調査で来館された。
- 4月27日 中海放送TVの施設取材があった。
- 4月21日 鳥取県文化財課、中森係長が上淀廃  
寺の壁画調査で来館された。
- 4月26日 五千石小学校児童がウォークラリ  
ー遠足で来館された。
- 5月1日 米子つつじまつりが開催され、ゲスト  
控室に資料館研修室を提供した。  
埋文センターを臨時開館した。
- 5月2日 尚徳小学校児童がウォークラリ一遠  
足で来館された。
- 5月12日 米子市教育委員が施設視察で両館へ  
来館された。
- 5月14日 古代炊飯法3D調査で北陸学院大学  
小林教授ほか来館された。
- 5月15日 遺跡ガイドウォーク「鳥取県最大級  
の前方後円墳を歩く」を開催した。



遺跡ガイドウォーク風景

- 5月17日 鳥取大学李准教授ほか学生4名が鉄  
器保存処理状態の調査で来館された。
- 6月2日 尚徳小学校3年生が古代学習で来館  
された。



尚徳小児童の古代学習状況

- 6月8日 木更津市教育委員会、井上学芸員が  
上福万遺跡の縄文早期土器調査で来  
館された。
- 6月16日 尚徳小学校3年生が古代体験学習の  
ため、埋文センターで火起こし体験  
等を行った。

## 編集後記

4～5月は学校の遠足のシーズンで福市遺跡公園をめざして、地元の五千石小や尚徳小をはじめ、米子東高校、米子西高校がやってきました。また、今年はつつじも良く咲いて、にぎやかにつつじ祭りが開催されました。6月は古代学習で尚徳小の子供たちがやってきました。例年繰り返される行事ですが、参加する子どもたちは、初体験の子ばかりで大騒ぎでした。

発行日 平成28年6月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp